

大人用



伝道地便り

2024年 第1期 南アジア支部

第1話「安息日のサッカー」

インド

第2話「鳥肌が立つ讃美」

インド

第3話「イエス様に触れられて」

ネパール

第4話「その日を待ち望んで」

ネパール

第5話「不思議な声」

インド

第6話「生きていてよかった」

インド

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 安息日のサッカー

インド



クリーニング

クリーニングにとってサッカーはまさに生きがいでした。インド北東部で育った彼は、放課後になると暇さえあればサッカーをしていました。インドでは、中等学校（10年生）を修了するためには州の試験に合格する必要があります。その試験の前に、彼は別の町に引っ越しましたが、そこでもサッカーをする10代の若者たちを見つけて、土曜日にサッカーをしていました。

土曜日にサッカーをするとき、クリーニングがいつも驚いたことがあります。それは、グラウンドの向こう側から、讃美歌を歌い、神様に祈りをささげる声が聞こえてくることです。グラウンドのすぐ近くに、セブンスデー・アドベンチストの学校と教会があったのです。

クリーニングはクリスチ안의家庭に育ち、キリスト教の学校でずっと学んできました。しかし、土曜日に礼拝する人たちがいる話は聞いたことがありませんでした。

グラウンドでボールを追いかけていると、彼は不思議に思いました。「一体この人たちは誰なのだろう？

なぜ日曜日ではなく、土曜日に礼拝をしているのだろうか？」

クリーニングは州の試験に合格し、10年生を修了することができました。しかし、上級中等学校の11年生に進学するための試験を受けましたが、その試験に合格することはできませんでした。落ち込んだ彼は、2人の友人に助言を求めました。そうすると、その友人らは2人とも、グラウンドの横にあるアドベンチストの学校で学ぶつもりだったので、そこへ一緒に行こうとクリーニングを誘うのでした。

このような経緯でクリーニングは、アドベンチストの学校を受験することになり、その結果、入学することを許可されました。彼は喜びました。

学校で学ぶ月日が経つにつれて、土曜日にサッカーをしているとき、なぜ人々が賛美歌を歌い、神様に祈っていたのか、その理由が分かってきました。学校では、創世記2章を読み、神様が天地創造の週の終わりに、週の7日目である土曜日を聖なる日として定められたことを学びました。出エジプト記20章には、神様が十戒の中で、安息日を守ることの重要性を民に思い出させたことが記されていました。また、イエス様ご自身が地上に生きている間、安息日を忠実に守られ、礼拝の日を日曜日に変えたことがないことを知りました。

クリーニングは両親にアドベンチストの教会員になりたいと申し出ました。しかし、両親は難色を示しました。両親を失望させたくなかったクリーニングは、しぶしぶバプテスマを受けることを断念しました。

クリーニングの故郷にはアドベンチスト教会がなく、休みで帰省した際、安息日に教会で礼拝を行うことができませんでした。彼は両親と10人の兄弟姉妹に、学校で安息日について学んだことを話しましたが、彼らは聞く耳を持ってくれませんでした。

「あなたがアドベンチスト学校の生徒であることは良いことだけれど、アドベンチストになる必要は

ありません」と母は言いました。さらに父は、「もしアドベンチストになることを選んだら、お前はもうこの家族の一員ではない。家から追い出す」とまで言いました。

アドベンチストの上級中等学校で 12 年生を卒業したクリーニングは、同じ町にあるノンクリスチャンの大学に入学しました。しかし、その学校は居心地が悪いと感じました。自分の居場所ではないと思ったのです。彼は、キリスト教の大学で学ぶことを切望しました。

ある日、サッカーをしていたクリーニングは、アドベンチストのチームメイトから 1000 人宣教運動と呼ばれるアドベンチストの学生宣教師の組織について聞きました。学生宣教師になるという考えにピンと来たクリーニングは、すぐにその組織の地元のリーダーを探し始めました。

まもなくクリーニングは、アドベンチストの教会員となり、学生宣教師として 8 か月間、小学校 4 年生の子どもたちを教えました。

両親は彼がアドベンチストになったことを喜びませんでした、しかし、彼はもう実家には住んでいなかったのので、彼を罰する方法はあまりありませんでした。

一方、クリーニングの心には、牧師になりたいという願いが芽生え、スパイサー・アドベンチスト大学に入学しました。現在、彼は神学科専攻の 2 年生で、サッカーを通して若者たちの心に触れたいと願っています。

「私の目標は、牧師になり、サッカーを通して地域の若者たちに福音を伝えることです。サッカー・アカデミーを開いて、若い人たちに宣教したいと思っています。ご存知のように、多くの若者はサッカーが大好きです。このスポーツを通して、若者たちに手を差し伸べ、彼らをイエス・キリストのもとに連れて行きたいと願っています」と、彼は語ります。

彼は、聖書を知り、聖書に従うことで自由を見出したと言います。そして家族にも同じ自由を味わってほしいと願っています。

「私は、ヨハネ 8 : 32 にある『そして、あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする』という使徒ヨハネの言葉を確信しています。どうか、

福音の宣教師になる準備をしている私のために、お祈りください」

今期の 13 回献金（3 月 30 日）は、クリーニングがインドで初めて第 7 日の安息日について学んだ学校のような、6 つのセブンスデー・アドベンチスト学校の建設や改築のために用いられます。皆様の惜しみないご献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- Facebook より写真をダウンロードできます。
bit.ly/fb-mq.
- 南アジア支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/sud-2024.
- この伝道地便りは、「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No. 5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No. 6）
「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No. 7）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- インドの公用語はヒンディー語と英語です。
- インドのマハラシュトラ州の州都ムンバイは、もともと 7 つの島（ボンベイ島、コラバ島、マヒム島、マザガオン島、パレル島、ウォルリ島、オールド・ウーマンズ・アイランド）につくられました。19 世紀に行われた埋め立て工事によって、島々は 1 つの陸地になりました。
- クリケットはインドのマハラシュトラ州で最も人気のあるスポーツです。

2. 鳥肌が立つ讃美

インド



シャクンターラ&ジョイ

美しい聖歌隊の讃美がオフィスに流れてくると、広告会社の経営者であるシャクンターラは、鳥肌が立つのを感じました。彼女がインドのバンガロールで経営する広告代理店のデスクで仕事をしている最中に、その讃美を聴いたのは初めてではありませんでした。また、その讃美を聴いて鳥肌が立ったのも初めてではありませんでした。

しかし、今回はじっとしてはいられませんでした。シャクンターラは何が行われているかを確かめるため、2階のオフィスの窓際に行きました。すると向かいのビルに、人が出入りしているのが見えました。ビルの中で何が行われているのか、彼女は疑問に思いました。なぜ鳥肌が立つのか、彼女は不思議に思いました。そして、そのビルまで歩いて行って、何が行われているかを自分の目で確かめたいという強い衝動に駆られました。

ゆっくり、そーっと、彼女はオフィスビルから出て通りを渡りました。誰も知り合いのいないビルに入るのは少し不安でした。

ゆっくり、そーっと、彼女はビルの入り口まで来ました。「中に入って、聴いてもいいですか？」と、そこに立っている人に尋ねました。するとその人は優しく、「どうぞ中に入って、座って聴いてください」と、答えてくれました。

シャクンターラは座って耳を傾けました。聖歌隊はもうオルガンの音楽に合わせて歌ってはいませんが、代わりに1人の男性がアカペラで歌っていました。彼が歌い終わると、シャクンターラは勇気を出して彼に歩み寄り、尋ねました。「オルガンは演奏していないのですか？鳥肌が立つような聖歌隊の讃美はいつ聴けるのでしょうか？」。男性は驚いた様子でした。彼女は、ここ数週間、毎週土曜日に事務所でその聖歌隊の讃美を聴いていたことを説明しました。その讃美は毎週土曜日にしか聴くことができませんでした。

シャクンターラは次の土曜日、そしてその次の土曜日と、2度、教会に行つて讃美を聴きました。聖歌隊が歌っている間、彼女は席に置いてあった歌集を手に取りました。そして鳥肌が立つほどに感動した曲の題名を見つけたのです。それは、『丘に立てる荒削りの (The Old Rugged Cross)』と、『安かれ、わが心よ (Be Still My Soul)』という讃美歌でした。

3度目の土曜日、彼女は讃美を聴いたあとも教会に残り、イエス様についてのお話に耳を傾けました。家に帰ると彼女は考えました。「私は教会で聞いたイエス様のお話が好きだ。イエス様が好きならば、家にある他の神々の絵は必要ないのではないか」。こうして彼女は、それらの絵をすべて壁から外し、手放すことにしました。

彼女は安息日に教会に通い続け、讃美を聴いては鳥肌が立つのを感じました。

しばらくして、教会の牧師が、ご家族も教会に誘ってみませんかと彼女に尋ねました。すると彼女は、「心配しないでください。彼らはきっと来ます」と

言いました。彼女の言った通り、彼らはやって来ました。最初に息子のジョイが来て、それから孫たちも興味を持つようになりました。そして彼女の家の家政婦まで教会に来るようになったのです。聖書を学んだあと、彼女の家族はイエス様に人生をおささげしました。

シャクンターラは献身的な教会員となり、彼女の孫の1人は今、教会の青年牧師として働いています。

現在、シャクンターラは84歳で、広告の仕事からは引退しています。彼女は2005年に初めて聴いた聖歌隊の讃美に感謝しています。その讃美が彼女をイエス様へと導いたのです。「今でも聖歌隊の讃美を聴くと鳥肌が立ちます」と彼女は言います。

今期の第13回献金の一部は、シャクンターラのいるインドのバンガロールに建設予定の、新しいセントラル・イングリッシュ・チャーチのために役立てられます。3月30日の献金は、バンガロールの多くの人々に美しい讃美を、そしておそらく鳥肌を立てるような感動をもたらすことでしょう。

〈お話のヒント〉

- ・シャクンターラと息子のジョイは、現在も教会のメンバーとして活躍しています。
- ・Facebook で写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq.
- ・南アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/sud-2024.
- ・この伝道地便りは、「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「世界的な宣教の概念を復興させ、宣教のために犠牲を払うという概念を、牧師だけの生き方としてだけでなく、全ての教会員の生き方として復興し、老若男女問わず、全員がキリストのために証しし、弟子を作る喜びを得る」（「伝道の目標」No.1）

詳細はウェブサイトをご覧ください。

IWillGo2020.org

豆知識

- ・カルナータカは、“高地”を意味するカンナダ語の *karu* と *nādu* に由来します。
- ・ベンガルール（別名バンガロール）はインドのカルナータカ州の州都であり、人口は800万人以上、その圏内の人口はおよそ1,100万人です。
- ・ベンガルールには多くのビーガンレストランやビーガン活動グループがあります。PETA（動物の倫理的扱いを求める人々の会）のインド支部は、ベンガルールをインドで最もビーガンに優しい都市としています。

3. イエス様に触れられて

ネパール



ルパマヤ

ルパマヤの人生は悲惨なものでした。これ以上ひどくなることはないと思っていましたが、さらにたくさんの試練が彼女を襲いました。

ルパマヤは、ネパールで「不可触民」と呼ばれる低カーストの家庭に生まれました。それは、彼女が生まれながらに汚れており、生涯不浄な者とみなされ、不浄の死を迎えることを意味していました。彼女が産んだ子どももまた不浄のものとなり、彼女につけられた不可触民という汚名は何を持っても取り除くことはできず、彼女は常に人間以下とみなされました。

不可触民であるルパマヤは学校に行くことは勿論のこと、読み書きを習うことさえ許されませんでした。

ネパールでは児童婚が昔も今も一般的で、彼女は14歳で結婚しました。

結婚後も生活が改善することはありませんでした。ルパマヤの夫は土地を持っておらず、2人は他人の畑で働き、生計を立てていました。ルパマヤは7人

の子どもを産みましたが、子どもたちを養うことができませんでした。そのため、子どもたちは働ける年齢になると、親戚や他の人々の家で働きながら暮らさなければならませんでした。

そんな中、彼女の2歳の息子が高熱で亡くなってしまいました。幼い息子を亡くしたあと、他の2人の息子たちが、別の街に住む姉に会いに行った帰りに行方不明になりました。その姉はホテルで働いて、家族のためにお金を貯めたと家に手紙を送っていました。ルパマヤは11歳と13歳の2人の息子たちにお金を取りに行くように頼みました。息子たちは姉に会い、バスの中から手を振って別れを告げ、帰路に着きました。しかし息子たちが家に帰ってくることはありませんでした。乗ったバスが事故に遭ったのだという人もいましたが、何があったのかは分からず、ルパマヤは息子たちを探し回りましたが見つかりませんでした。

そしてまた悲劇は起こりました。彼女の夫が体調を崩し、家には医者にかかるお金もなかったため、そのまま病状は悪化し、亡くなってしまったのです。不可触民であることだけでも困難でしたが、不可触民の未亡人であることはさら困難なことでした。他の不可触民でさえ、彼女を見下しました。

月日が経つにつれ、ルパマヤの悲しみは増してきました。ついに彼女は働くことをやめました。働かないので食べ物もありませんでしたが、食べる気力もありませんでした。彼女はベッドに横たわり、失った夫と3人の子どもたちのことを想いました。彼女は自分の人生を悔い、自ら命を絶つことを考えるようになりました。

「なぜ母は私を産んだのだろう？ なぜ私はこんな目に遭うのだろう？」彼女は毎日思い詰めていました。

そんなとき、彼女の家に見知らぬ人が訪れました。ティルタはセブンスデー・アドベンチスト教会のボ

ランティアとして働いており、近所の人からルパマヤのことを聞いていました。ティルタはルパマヤに食べ物と薬を持ってきて、お祈りをしてくれました。

「私の教会に来てみませんか？ あなたのために皆で祈ります」と、ティルタは彼女を教会に誘いました。

ティルタは定期的にルパマヤを訪問するようになりました。ルパマヤは彼女の訪問を楽しみにしていました。ティルタの運んでくれる食事、薬、祈りがルパマヤの心を癒し、ルパマヤの心に、ひとすじの希望が生じました。そして彼女はアドベンチスト教会に通うようになりました。

それから 8 年が経ち、ルパマヤは熱心なセブンスデー・アドベンチストとなりました。彼女は現在 65 歳で、息子とその妻と一緒に暮らしています。ルパマヤの影響で、息子の妻も最近アドベンチストとなりました。

すべてを失ったけれど、イエス様がおられるので幸せです、と彼女は言います。ある人たちからはアンタッチャブル（不可触民）として敬遠されるかもしれませんが、イエス様が彼女の心に触れてくださっているの、彼女は今、幸せなのです。

「私の夫は死に、息子も死に、2 人の息子は姿を消し 30 年経った今も行方は分かりません。私はすべてを失いましたが、私の人生にはイエス様がおられます。イエス様が来られるその日には、失った愛する人たちに会えるという大きな希望を持っています」

今期の 13 回献金（3 月 30 日）の一部は、ネパールの子どもたちが読み書きを学ぶことができる学校の設立に役立てられます。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- **Facebook** で写真をダウンロードできます。
bit.ly/fb-mq.
- 南アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/sud-2024
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No. 5）
詳しくはウェブサイトをご覧ください。
IWillGo2020.org

豆知識

- ネパールには、世界最高峰のエベレスト山（標高 29,031m）をはじめ、世界最高峰の山 10 座のうち 8 座があります。エベレストはネパール語でサガルマータと呼ばれ、地元のシェルバ族やチベット人はチョモランマと呼んでいます。
- ネパールの国旗は、世界で唯一、三角形を 2 つ重ねた長方形ではない形をしています。1962 年に制定されましたが、基本的なデザインは 2,000 年以上前からネパールで使われていました。
- ネパール料理には独特なベジタリアン料理が数多くあります。多くの宗教の教義であらゆる生命を殺すことが禁じられていたことが、その発展の一因だと考えられています。
- シェルバ族は、ネパールの山岳地帯に住むチベット系民族のひとつで、優れた登山家、案内人として知られており、特にエベレストの登山隊に高く評価されています。

4. その日を待ち望んで

ネパール



スカマヤ

スカマヤにとって、息子は人生の喜びでした。彼女の息子シャムは、スカマヤが 16 歳の時、結婚した直後にネパールで生まれました。

しかし、生後 8 か月の頃、シャムはお腹を下して寝込んでしまいました。スカマヤは夫に呪術師を呼ぶよう頼みました。人里離れた山間部の村には病院もなければ医師もいませんでした。誰かが病気になると、村の人々は呪術師を呼んだのです。

呪術師に息子を診せると、「これは悪霊の仕業だ。悪霊はあなたの家族に怒っている。悪霊を喜ばせるために豚の生け贄をささげなさい」と言われました。しかし、豚の生け贄をささげる時間もないまま、スカマヤと夫が呪術師と話をしている最中に、赤ちゃんは彼女の腕の中で息を引き取りました。

そのショックは計り知れませんでした。スカマヤは気を失い、3 日間意識を失ったままでした。目が覚めると、彼女は飲むことも食べることも拒否しました。彼女はもう生きていたくはありませんでした。

夫や近所の人たちは彼女を励まそうとしました。「きっとまた息子を授かる時が来る」

そして 1 年後、スカマヤは女の子を産みました。

息子と同じシャムと名付けました。彼女は幸せでした。娘のために生きるという、生きる理由ができました。

しかし、息子の死後、スカマヤの夫は多量のお酒を飲むようになり、それが原因で一家は次第に経済的に困窮していきました。

一方、スカマヤはシャムが成長し、20 歳で結婚するまで、愛情を持って見守り続けました。シャムは同じ村に住む遠い親戚の男性と結婚しました。

悲劇はシャムが第一子を妊娠したときに再び起こりました。ある晩、合併症が起こったのです。緊急の治療が必要でした。村にはまだ病院もなく、医師もいなかったため、村の人々はシャムを簡易の担架に乗せ、隣町まで運びました。道なき道を 4 時間もかけて運びました。道路がある次の町でシャムは救急車に乗せられ、病院のある町まで運ばれました。しかし病院にたどり着く前に、彼女は亡くなりました。

この死はスカマヤに大きな打撃を与えました。彼女は数日間、夫と酒を浴びるように飲みました。死と暗闇が 2 人を取り囲んでいるかのようにでした。夫妻はシャムの葬儀の席で堪えきれずに号泣しました。葬儀に参列した人々の中に、セブンスデー・アドベンチストの牧師がいました。彼は夫妻のたった 2 人の子どもの死を耳にし、彼らに希望を与えようと、聖書を開き、イエス様の言葉を伝えました。「神はそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠のいのちを得るためである」(ヨハネによる福音書 3 章 16 節)

この聖句にスカマヤは戸惑いました。彼女には理解できなかったのです。「イエス様を信じることによって、なぜ死を免れることができるのだろうか?」と、彼女は不思議に思いました。彼女の困惑した様子を見て、牧師は聖書のルカによる福音書 8 章 52 節を

開き、「泣くな。死んだのではない。眠っているのだ」というイエス様の言葉を読みました。

スカマヤは慰められました。娘のシャムは眠っているだけなのだろうか？ 彼女はもっと知りたいと思いました。葬儀の数日後、彼女は牧師にその聖句について説明してほしいと頼みました。そこで牧師との聖書研究が始まりました。その聖書の学びの中で、牧師は彼女にこう尋ねました。「イエス様が来られる時、あなたは子どもたちに会いたいですか？」スカマヤは目を輝かせ、「はい！」と答えました。

彼女はイエス様に心をささげました。

現在、スカマヤは忠実なアドベンチストです。彼女はイエス様の希望を夫と分かち合いたいと望みましたが、残念ながら夫は聞く耳を持ちませんでした。夫はアルコール依存症が原因で、短い生涯を終えてしまいました。

スカマヤは今、1人で暮らしていますが、本当は1人ではないことを知っています。彼女は、私はイエス様と一緒に暮らしています、と言います。彼女は幸せです。なぜなら、イエス様がまもなく来られ、息子と娘を復活させてくださると信じているからです。

「その日に子どもたちを抱きしめるのが楽しみです。子どもたちは私の心そのものです。私がクリスチャンになった理由のひとつは、イエス様が来られるその日に、あの子たちにもう一度会いたいという願いからです。その日を心から待ち望んでいます」

今期の13回献金（3月30日）の一部は、ネパールの子どもたちが、スカマヤの持つ希望について学べる学校の設立に役立てられます。皆様の惜しみない13回献金を心から感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- Facebook で写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq.
- 南アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードできます。bit.ly/sud-2024.
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する。」（「霊的成長の目標」

No. 5)

- 詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ネパールの首都はカトマンズです。人口は300万人で、ネパールの人口の約1割を占めています。
- 伝説によれば、一般的にブッダとして知られる、仏教の開祖であるシッダールタ・ゴータマは、紀元前6〜5世紀に、現在のネパールにあるルンビニで生まれたとされています。
- ネパールには多くのランやシャクナゲが生育しており、世界のメコノプシス（英語名：ブルー・ポピー）の約40%、およそ6,000種近くが生育しています。
- ドホリ（「討論」の意）は、求愛の伝統から生まれたネパールの民族音楽の一種です。2つのチームで行われ、通常、男女が分かれてチームをつくります。即興で歌詞を考えながら交互に歌を掛け合い、問いと答えからなる歌の対話が、1週間も続くことがあります。
- ガビアル（*Gavialis gangeticus*）はインド亜大陸原産で、世界最長のワニです。体長は最大19フィート8インチ（6メートル）で、細長い鼻と110本の鋭い歯を持っています。

5. 不思議な声

インド



レックス

1980 年代初頭、インドにある自宅で昼寝をしていた父親は、どこからともなく聞こえてきた声で目を覚ましました。

「もし今日死ぬとしたら、あなたは何をしますか？」

父親は驚きました。家中あちこちを見回しましたが、自分に話しかけてきた人は誰も見つかりません。父親は心配になり、「私に話しかけたのは誰だ?!」と叫びましたが、答えはありませんでした。ますます不安に駆られた彼はこう祈りました。「神様、私に話しかけたのが一体誰なのか教えてください」。しかし、家は静まり返ったままで、彼はどうしたら良いのかかからずに思案していました。

それから 1 時間半ほど過ぎた頃、ドアをノックする音が聞こえました。外にはセブンスデー・アドベンチストの文書伝道者が立っていました。父親は驚きました。昼寝をする少し前に、訪ねてきたのと同じ男性です。その男性が聖書について話すのを数分間聞きましたが、その後彼は固くドアを閉めたので

した。自分はクリスチャンだと思っていましたが、聖書を持っていませんでしたし、読んだこともありませんでした。そんな訳で、その男性の話を聞こうと思わなかったのです。

しかし、不思議な声を聞いた後だったので、父親は文書伝道者に再び会えたことを喜びました。聖書についてもっと知りたいと思ったのです。聞く準備はできていました。

その文書伝道者は、父親が聞いたこともない話をしました。伝道者が去った後、彼は自分で真理を確かめようと思い、自分の通う教会の神父のところへ行き、聖書を買いました。安くはない、高額のものでした。

父親は聖書を熱心に読み始めました。読んでいるうちに、3つの疑問が湧いてきて、神父のところに行って質問しました。

「なぜ私たちは像を礼拝するのですか？ そして、なぜ日曜日を守っているのですか？」

神父は良い顔をせず、「これだから聖書を人に渡さないのだ」と言いました。

神父の答えに納得がいかなかった父親は、その神父の教会に行くのをやめました。そして妻と 16 歳と 10 歳の 2 人の息子連れて、日曜日には別の教会に行くようになりました。

しばらくして、アドベンチストが町で伝道集会を開いたので、父親は家族を連れて集会に行きました。彼は自分の抱いていた疑問を説教者にぶつけ、像を拝むことや日曜礼拝について質問しました。説教者は聖書の言葉で返答し、父親とその妻、そして 16 歳の息子はアドベンチストの教会員となりました。

親戚や隣人たちはこのことを喜びませんでした。父親には 5 人の兄弟と 2 人の姉妹がいましたが、彼らは一家と話すことすら拒みしました。近所の人たちも皆、父親が以前所属していた教会に属しており、一家と話すことを拒みしました。父親は安息日に休み

が取れず、仕事を辞めざるを得なくなりました。

数年間、一家の生活は厳しいものでしたが、苦しい中でも、父親と母親は末っ子のレックスを公立学校から、アドベンチストの全寮制の学校に転校させました。

レックスは12歳のときに、E.D.トーマス・メモリアル中等教育学校に入学しました。その後6年間そこで学び、イエス様に心をささげました。卒業後はスパイサー・メモリアル・カレッジ（現在のスパイサー・アドベンチスト大学）に進学し、牧師となりました。現在、彼はインドのアドベンチスト教会の指導者として、セブンスデー・アドベンチスト南東インド教団の安息日学校部長を務めています。

今は亡き彼の父親は、イエス様のために生きた人でした。彼は故郷に最初のアドベンチスト教会を開き、その後、バイブルワーカーとして奉仕し、数々の教会を建て、多くの人々をキリストに導きました。

レックスは、40年以上前に父親の昼寝を妨げた不思議な声に感謝しています。そして両親が彼をアドベンチストの学校に入れてくれたことを嬉しく思っています。この2つの体験が彼の人生を永遠のものに変えてくれたと彼は信じています。

「私はこの学校の卒業生であることを誇りに思います。この学校は私に真理を教えてくれました。そして今日、私は神に仕える者となっています。」

今期の13回献金の一部は、インドのタンジャブールにあるレックスの学校、E.D.トーマス・メモリアル中等教育学校の老朽化した女子寮の再建に役立てられます。3月30日に予定されている皆様の13回献金を心より感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・レックスのフルネームは **Rex Sahayaraj**（レックス・サハヤラ）です。
- ・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq.
- ・南アジア支部の情報「**Fast Facts and Mission Posts**」をダウンロードしましょう。
bit.ly/sud-2024

この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略的の以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子ども、若者、ヤングアダルトの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）

「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ・ボリウッドは世界最大の映画製作国で、年平均 1,500～2,000 本の長編映画が製作されています。
- ・インド鉄道の従業員数は140万人で、世界最大の従業員数を誇っています。その鉄道網を毎日約2,300万人の乗客が利用しています。
- ・ベンガルトラはインドの国獣であり、1972年にインドを象徴する動物に選ばれました。ウッタラーカンド州のコルベット虎保護区とカルナータカ州のバンディプール国立公園にはベンガルトラが最も多く生息しています。
- ・ホワイタイガーはベンガルタイガーの中にしかいません。
 - ・インドは世界で唯一、ライオンとトラの両方が生息している国です。

6. 生きていてよかった

ガーナ



シーヤ

シーヤは、インドの伝統的な神々にしか祈りをささげていませんでした。彼にとって、それ以外の生き方は考えられませんでした。

成人した娘のアーティがイエスという別の神を信じると決めたとき、彼は驚きました。シーヤはこの新しい神に懐疑的でした。しかし、アーティがイエスに祈ることで、彼女の人生にポジティブな変化が起きているのを見て、彼は心配するのをやめました。

彼は変わらず、自分の神々にのみ祈りをささげました。彼は年老いていたので、この新しい神の必要性を感じる事がなかったのです。

そんな時、シーヤは自宅で転倒してしまいました。娘のアーティは彼を急いで病院に連れて行き、数日後、家に連れて帰って看病しました。彼女が友人と電話で話しているとき、シーヤは彼女たちが自分の健康のために祈っているのを聞きました。3か月後、シーヤは完全に回復しました。彼は変わらずに、自分の神々に祈り続けました。

その後、彼はまたひどい転倒に見舞われ、肋骨を

骨折し、今度は15日間入院することになりました。医師はベッドでの安静を勧めました。自宅に戻ると、彼の健康状態は悪化の一途をたどりました。娘のアーティは心配し、彼をセブンスデー・アドベンチストのライフスタイル・センターに連れて行きました。

アドベンチストの医師の治療を受けて、シーヤは徐々に元気を取り戻し始めました。マークという名の青年が、シーヤの世話をしてくれました。シーヤは特にマークに感謝していました。彼はとても親切で、思いやりがありました。マークを通して、シーヤは初めてイエス様の愛を感じました。彼はマークの優しさを通してイエス様を見たのです。

シーヤはセンターに滞在した4か月間、毎週土曜日に教会の礼拝に出席しました。イエス様について、そして安息日について学びました。栄養の大切さについても学びました。

ある日、礼拝の説教がシーヤの心に響き、自分の心をイエスにささげたいと強く思うようになりました。しかしその後、家族間の問題によって彼の心は霊的なものから離れていき、彼はイエス様のために生きたいという願いを忘れていきました。すると彼の健康は再び悪化し始めました。しかし、アドベンチストの医師とマークの助けによって、シーヤは何とか再び元気を取り戻しました。

その時、シーヤはあるパターンに気がつきました。イエス様から離れるたびに、健康上の困難に見舞われるようです。自分の道を行くたびに、彼は転倒したり、他の苦難に直面したりしているのです。シーヤは、イエス様が自分の道を歩むのではなく、ご自身のもとにとどまるように呼びかけているように思えました。

シーヤはこのことに気がついた瞬間、イエス様に心をささげる決心をしました。すぐに娘に電話をすると、こう伝えました。「明日、死ぬかもしれないなら、今日、イエス様を個人的な救い主として受け入

れる方が良いでしょう」

シーヤが初めにひどい転倒をしてからちょうど10か月後、彼はイエス様に心をささげたのです。彼の古い人生は悔い改めの水で洗い流され、78歳のシーヤの、キリストの子どもとしての新たな歩みが、インドの川から始まりました。

現在、シーヤが他の神々に祈ることはありません。彼が祈りをささげるのは天の神様だけです。

「イエス様のおかげでタバコも紅茶もやめられました。体調が良くなり、健康を毎日感じられるようになり、1日に3回必ず祈りをささげています。」

シーヤは、イエス様が今日も生かしてくださっていることを感謝しています。

「娘がああライフスタイル・センターに連れて行ってくれたことをイエス様に感謝しています。そうでなければ、イエス様を知り、個人的な救い主としてイエス様を受け入れる機会を得ることはなかったでしょう。」

安息日学校のミッション献金は、インドや世界中の人々にイエス様の愛を分かち合うために用いられます。インドとネパールのプロジェクトにささげられる13回献金は3月30日に予定されています。皆様の献金を心から感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。

bit.ly/fb-mq.

- 南アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/sud-2024.

- このミッションストーリーは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ラビンドラナート・タゴール（1861-1941）は、ベンガル出身の詩人、作家、劇作家、作曲家、哲学者、社会改革者、画家です。1913年に、ヨーロッパ人以外で最初に、また、作詞家として最初にノーベル文学賞を受賞しました。彼の作曲した2曲は、インドとバングラデシュの国歌となりました。
- サリーの起源は少なくとも紀元前3000年にさかのぼると言われています。花嫁は豊穡と繁栄を象徴する赤を着ることが多くあります。
- チェスは、7世紀にインド北西部で行われたチャトランガという戦争ゲームがもとになっており、1500年前にインドで生まれたと言われています。